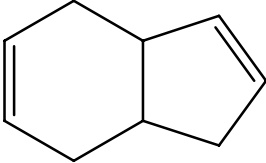


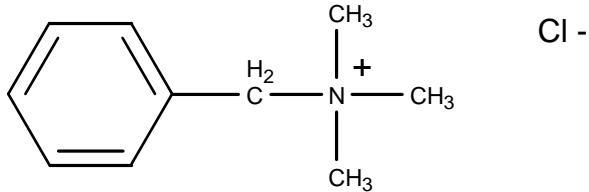
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-581	CAS No.	3048-65-5
判定案	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p> <p>生態影響 第三種監視化学物質相当相当【審議済み】</p>		
名称 構造式等	<p>名称：3a, 4, 7, 7a-テトラヒドロ-1H-インデン</p> <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.0%. 溶媒 (DMSO-溶解).</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>(本試験 I)</p> <p>– S9mix 群：125 µg/plate (TA1535, TA1537：62.5 µg/plate 以上で菌の生育阻害) 250 µg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 125 µg/plate 以上で菌の生育阻害)</p> <p>+ S9mix 群：250 µg/plate (TA1535：125 µg/plate 以上で菌の生育阻害 TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 500 µg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 250 µg/plate 以上で菌の生育阻害)</p> <p>(本試験 II)</p> <p>– S9mix 群：125 µg/plate (TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 250 µg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 125 µg/plate 以上で菌の生育阻害)</p> <p>+ S9mix 群：250 µg/plate (TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 500 µg/plate (TA98, TA100, WP2 uvrA : 250 µg/plate 以上で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陽性</p> <p>D20 値=0.16mg/mL (+S9mix:構造異常)</p> <p>+S9mix 群で構造異常の誘発</p> <p>純度 99.0%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU.</p> <p>0.4mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施.</p> <p>– S9mix 群：0.10mg/mL (細胞毒性のため 0.050mg/mL まで観察)</p> <p>+ S9mix 群：0.20mg/mL (細胞毒性のため 0.10 mg/mL まで観察)</p> <p>24 時間処理群：0.10mg/mL (細胞毒性のため 0.050 mg/mL まで観察)</p> <p>48 時間処理群：0.10mg/mL (細胞毒性のため 0.050 mg/mL まで観察)</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：オリーブ油	
	純度	99.0%	
	用量	3 投与群 (67, 200, 600mg/kg)	
	死亡	–	
	NOEL	反復投与：67 mg/kg/day 未満 生殖発生毒性：200 mg/kg/day	

	推定根拠	<p>反復投与 相対重量(腎↑：67以上♂，600♀) 病理組織学的所見(腎-近位尿管上皮硝子滴沈着・好酸性小体：67以上♂)</p> <p>生殖発生毒性 総出産児数↓：600、生児分娩率↓：600、生後0日及び4日生存児数↓：600、 黄体数↓・着床数↓：600</p>
	他の毒性	<p>反復投与毒性 体重↓(200以上♀♂) 血液学的検査(RBC↓・Hb↓・Hct↓：600♂) 絶対重量(肝↑：600♀、腎↑：200以上♂・600♀) 相対重量(肝↑：200以上♀・600♂) 病理組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：600♀♂、 腎臓-尿管上皮の再生：200以上♂)</p>
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験陰性、染色体異常試験は軽微な陽性、NOEL67mg/kg/day 未満であり、特に毒性学的に重要な変化がみとめられないことから、現時点では第二種監視化学物質相当ではない。	
藻類生長阻害【審議済み】	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.80、1.6、3.2、6.4、10、16、24 mg/L 実測濃度 0.31、0.65、1.3、2.7、4.2、7.1、11 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-30（25:8） 99 mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=7.0 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.65 mg/L</p>	
ミジンコ急性遊泳阻害【審議済み】	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.50、0.75、1.1、1.7、2.5 mg/L 実測濃度 0.38、0.54、0.75、1.2、1.6 mg/L（幾何平均値） 助剤： 2-メトキシエタノール及び HCO-30（1:1） 75 mg/L 48hErC50（実測値に基づく）=0.73 mg/L</p>	
ミジンコ繁殖阻害【審議済み】	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に 3 回(16 日まで)、24 時間毎(16 日以降)換水 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.055、0.15、0.40、1.0 mg/L 実測濃度 0.018、0.048、0.12、0.35、0.85 mg/L（時間加重平均値） 助剤： DMF 及び HCO-60（1:1） 30 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.12 mg/L</p>	
魚類急性毒性【審議済み】	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 2.0、4.0、8.0、16、32 mg/L 実測濃度 1.6、3.1、6.4、13、28 mg/L（幾何平均値） 助剤： メチルセロソルブ及び HCO-30（1:2） 96 mg/L（最高濃度） 96hLC50（実測値に基づく）=4.4 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.6 mg/L 群： 異常遊泳（72hr 2/10、96hr 1/9） 3.1 mg/L 群： 異常遊泳（72hr 5/10、96hr 6/10）</p>	

生態影響 判定根拠 【審議済 み】	ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.73mg/L かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50=4.4mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	平成 17 年 11 月 18 日の 3 省合同審議会において「Ames 試験陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるも、NOEL67mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質」という事務局案であったが、現時点での毒性情報だけでは第二種監視化学物質に該当するかどうか判断できないため、追加の毒性情報の収集を行い、再度審議することとされたが、新たな毒性情報は得られなかった。

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2694	CAS No.	56-93-9
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ベンジルトリメチルアンモニウムクロリド 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.0%以上. 溶媒 (注射用蒸留水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群 : 5000 μg/plate (TA100, TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 5000 μg/plate		
染色体 異常	陽性 +S9mix 群で構造異常の誘発 純度 99.0%以上. 溶媒 (生理食塩水-溶解). CHL/IU. 1.9mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群 : 1.9 mg/mL +S9mix 群 : 1.9 mg/mL 24 時間処理群 : 1.9 mg/mL 48 時間処理群 : 1.9 mg/mL (確認試験 1 回目) +S9mix 群 : 1.9 mg/mL (確認試験 2 回目) +S9mix 群 : 1.9 mg/mL *D20 値は算出できない。		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：超純水	
	純度	98%	
	用量	3 投与群 (30, 60, 120 mg/kg/day)	
	死亡	14 日間投与量設定試験 180 : ♂3/5・♀4/5 本試験 120 : ♀1/10	
	NOEL	30 mg/kg/day	
	推定根拠	一般状態(流涎 : 60 以上♂・120♀)	
	他の毒性	体重↓・摂餌量↓ : 120♂、 一般状態 (流涎・被毛の汚れ : 120♀♂、立毛 : 120♀)	
	回復性	問題なし	

<p>他の毒性 [追加情報]</p>	<p>[NTP(TOX-57)より引用] 反復投与試験 ・ 16日間 B3C3F₁マウス 強制経口投与(63, 125, 250, 500, 1000 mg/kg・5day/week) 溶媒：脱イオン水 死亡(125：1/5♀、250以上：5/5♂・5/5♀) NOEL：<63 mg/kg/day 絶対重量(肝↑：125♀) ・ 13週間 B3C3F₁マウス 強制経口投与(12.5, 25, 50, 100 mg/kg・5day/week) 溶媒：脱イオン水 死亡(100：1/10♂・1/10♀) NOEL：12.5 mg/kg/day 一般状態(多動：100♀) 相対重量(心↑：25以上♂、腎↑：50以上♂) ・ 16日間 F344/Nラット 強制経口投与(16, 32, 63, 125, 250 mg/kg・5day/week) 溶媒：脱イオン水 死亡(125以上：5/5♂・5/5♀) NOEL：32 mg/kg/day FOB(流涎：63♂♀、散瞳・振戦：63♂) ・ 13週間 F344/Nラット 強制経口投与(12.5, 25, 50, 100 mg/kg・5day/week) 溶媒：脱イオン水 死亡(100：2/10♀、25：1/10♀) NOEL：<125 mg/kg/day 体重↓(100♂) 一般状態(鼻汁・流涙：12.5以上♂・50以上♀、流涎：50以上♂・100♀、振戦：100♂♀) FOB(紅涙・流涎：100♂♀、流涙：12.5以上♀、異常歩行・振戦：100♂♀、瞳孔収斂：50以上♀) 生化学的検査(TP↓：25以上♀、Alb↓：50以上♀、Che↓：50以上♀) 相対重量(肝↑：100♀) AMES試験：陰性 小核試験：陽性</p>
<p>人健康影響判定根拠</p>	<p>Ames試験は陰性、染色体異常試験は軽微ながら陽性、小核試験の結果は陽性との報告もあり、NOEL30mg/kg/day (13週間試験においてはNOEL：12.5 mg/kg/day) であり、神経行動毒性がみとめられることから第二種監視化学物質相当</p>
<p>備考</p>	<p>平成17年11月18日の3省合同審議会において「Ames試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるが、NOEL30mg/kg/day であり、神経行動毒性がみとめられることから第二種監視化学物質相当」という事務局案であったが、現時点での毒性情報だけでは、神経行動毒性が発現しているとは判断できないとされたため、追加の毒性情報の収集を行い、再度審議することとされた。</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	9-810	CAS No.	110-02-1
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い		
名称 構造式等	名 称：チオフェン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 98%. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μ g/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群 : 2500 μ g/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μ g/plate (TA98, TA100, TA1535, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 2500 μ g/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μ g/plate (TA98, TA100, TA1535, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 2500 μ g/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μ g/plate (TA98, TA100, TA1535 : 2500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 2500 μ g/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μ g/plate (TA98, TA100, TA1535 : 2500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 98%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 0.84mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.84 mg/mL +S9mix 群 : 0.84 mg/mL 24 時間処理群 : 0.84 mg/mL 48 時間処理群 : 0.84 mg/mL		
反復経口投与 毒性・生殖発 生毒性併合試 験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	98%	
	用量	3 投与群 (25, 100, 400 mg/kg/day)	
	死亡	本試験(400 : ♀ 1/12)	
	NOEL	反復投与 : 25 mg/kg/day 未満 (最終報告書では 25 mg/kg/day) 生殖発生毒性 : 25 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与 組織学的所見(腎-尿細管上皮空胞化 : 25 以上♂・100 以上♀ 腎-好酸性小体 : 25以上♂, 400♀) 生殖発生毒性 哺育行動↓ : 100 以上、		

	<p>他の毒性</p> <p>反復投与 体重↓：400♂♀ 一般状態(流涎・眼瞼下垂・自発運動↓：100以上♂・400♀、流涙：400♂) 血液学的検査(Hgb↓・Hct↓：100以上♂) 血液生化学的検査(Glu↓・Pi↑：100以上♂、 BUN↑・Cho↑・Bil↑・GPT↑・GOT↑・γ-GTP↑：400♂) 尿検査(尿pH↑：100以上♂) 相対重量(肝↑・腎↑：100以上♂・400♀、精巣上体↑：400♂) 組織学的所見(大脳-脳室浮腫/拡張：400♀、 小脳-顆粒細胞核濃縮/壊死：100以上♀・400♂、 小脳-白質板壊死・フクシキ細胞変性/壊死・脂肪細胞浸潤：400♀、 肝-小葉中心性肝細胞肥大：100以上♂♀、 肝-マクロファージ浸潤：100以上♂♀、 肝-小葉中心性肝細胞壊死：100以上♀・400♂、 精巣-精細管萎縮：400♂)</p> <p>生殖発生毒性 -</p>
	<p>回復性</p> <p>実施せず</p>
人健康影響判定根拠	Ames試験及び染色体異常試験が陰性であるが、NOEL25 mg/kg/day未満であることから、第二種監視化学物質相当
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法： OECD-TG201</p> <p>培養方式： 振とう培養（密閉系）</p> <p>試験濃度： 設定濃度 3.0、7.5、19、48、120、300 mg/L 実測濃度 1.8、4.6、12、30、75、180 mg/L（幾何平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>0-72hErC50（実測値に基づく）=110 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=12 mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202</p> <p>試験方式： 半止水式、24時間後に換水</p> <p>試験濃度： 設定濃度 20、36、64、110、200 mg/L 実測濃度 16、27、48、81、140 mg/L（幾何平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>48hErC50（実測値に基づく）=20 mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202 Part II（1984年）</p> <p>試験方式： 半止水式、（16日後まで）週に3回換水、（16日以降）2日毎に換水</p> <p>試験濃度： 設定濃度 0.5、1.5、3.5、9.5、25 mg/L 実測濃度 0.4、1.2、2.8、8.1、19 mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>21dNOEC（実測値に基づく）=2.8 mg/L</p>

魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 6.0、12、24、48、96 mg/L 実測濃度 4.1、9.4、19、38、82 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=31 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 38 mg/L 群：異常遊泳（48hr 1/2、72hr 1/2、96hr 1/2）				
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 48hEiC50=20mg/L（ミジンコ急性遊泳阻害試験）であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=2.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S60	0/24	—	0.005(μ g/L)
	底質	S60	3/24	0.0002~0.0015(μ g/g-dry)	0.0001(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S61 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				

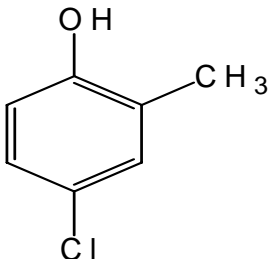
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-77	CAS No.	126-33-0
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：テトラヒドロチオフェン-1, 1-ジオキシド <div style="text-align: center;"> </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度≥99.9%. 溶媒（注射用蒸留水-溶解）. プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. （本試験 I, II） -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate		
染色体 異常	陰性 純度≥99.9%. 溶媒（注射用水-溶解）. CHL/IU. 1.2mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群：1.2 mg/mL +S9mix 群：1.2 mg/mL 24 時間処理群：1.2 mg/mL 48 時間処理群：1.2 mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：局方精製水	
	純度	95 %	
	用量	3 投与群（60, 200, 700 mg/kg/day）	
	死亡	予備試験(1000：♂1/4)	
	NOEL	60 mg/kg/day	
	推定根拠	組織学的所見(腎-近位尿細管硝子滴・好酸性小体・遠位尿細管拡張：200 以上♂)	
	他の毒性	体重↓：700♂、 摂餌量↓：700♂♀、 一般状態(自発運動↓：700♀) 血液生化学的検査(GPT↑：700♀、Che↑・Bil↑：700♂) 相対重量(腎↑：700♂)	
回復性	問題なし		
簡易生殖	投与方法	注射用水(溶解). 強制経口投与.	
	純度	97.3%	
	用量	3 投与群（60, 200, 700mg/kg/day）	
	死亡	700：♀ 1/12・♂1/12	
	NOEL	200 mg/kg/day	

	推定根拠	(反復投与毒性) 一般状態 (流涎 : 700♂♀) 体重↓・摂餌量↓ : 700♂♀ (生殖発生毒性) 児産出率↓ : 200 以上
	他の毒性	(反復投与毒性) なし (生殖発生毒性) 発情回数↓ : 700♀ 新生児全例死亡 : 700♀ 出生率↓ : 700 生後 0 日生存率↓・生後 4 日生存率↓ : 700 生後 0 日児体重↓・生後 4 日児体重↓ : 700♂♀
	回復性	実施せず
他の毒性	[SIAR より引用] 変異原性	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ames 試験 (TA 98, TA100, TA 1535, TA 1537, TA 1538. <i>E. coli</i> WP2, WP2uvrA) : 陰性 (With and without metabolic activation) ・ Ames 試験 (TA1535, TA1537, TA1538, TA98, TA100) : 陰性 (With and without metabolic activation) ・ マウスリンフォーマ TK 試験 : 陽性 (用量反応性がないため、解釈が誤りとされている)
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性、NOEL60mg/kg/day であることから第二種監視化 学物質相当でない	
藻類生長 阻害	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 試験濃度 : 設定濃度 95、170、310、560、1000 mg/L 実測濃度 96、170、300、550、950 mg/L (幾何平均値) 助剤 : なし 0-72hErC50 (設定値に基づく) >1000 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) =309 mg/L	
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 止水式 試験濃度 : 設定濃度 95、170、310、560、1000 mg/L 実測濃度 93、160、300、530、970 mg/L (時間加重平均値) 助剤 : なし 48hEiC50 (設定値に基づく) =850 mg/L	
ミジンコ 繁殖阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG211 試験方式 : 半止水式、週に 3 回換水 試験濃度 : 設定濃度 25、50、100 mg/L 実測濃度 25、50、100 mg/L (時間加重平均値) 助剤 : なし 21dNOEC (設定値に基づく) =25 mg/L	

魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 物質濃度：設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 100 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) >100 mg/L				
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 48hEiC50=850mg/L(ミジンコ急性遊泳阻害試験)であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=25mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51	0/60	—	0.16~1(μ g/L)
	底質	S51	0/55	—	0.007~0.260(μ g/g-dry)
	魚類	S51	0/1	—	0.02(μ g/g-wet)
備考	※1 S52 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

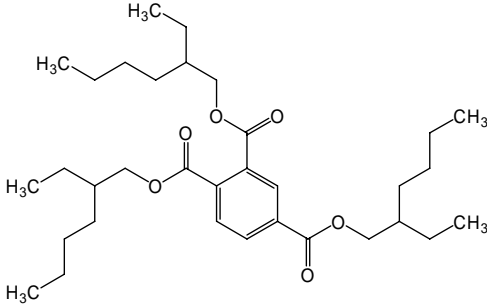
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-900	CAS No.	1570-64-5
判定案	人健康影響 収集された情報からは、第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4-クロロ-2-メチルフェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 93.9%. 溶媒 (DMSO-溶解). *純度換算あり TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで用量設定試験を実施した結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群 : 625 μg/plate* (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 1250 μg/plate* (WP2uvrA : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1250 μg/plate* (TA98, TA100, TA1537 : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 625 μg/plate* (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 1250 μg/plate* (WP2uvrA : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1250 μg/plate* (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 625 μg/plate 以上で菌の生育阻害 WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陽性 D20 値=0.13mg/mL (+S9mix 群 : 構造異常) +S9mix 群において構造異常の誘発. 純度 93.9%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. *純度換算あり 0.50mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.125 mg/mL* +S9mix 群 : 0.080 mg/mL* 24 時間処理群 : 0.060 mg/mL*(50%以上細胞分裂指数抑制濃度) 48 時間処理群 : 0.020 mg/mL* (確認試験) -S9mix 群 : 0.120 mg/mL*(50%以上細胞分裂指数抑制濃度)		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 局方ゴマ油	
	純度	93.6 %	
	用量	4 投与群 (15, 60, 250, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	本試験(1000 : ♂1/10・♀3/10)	

	NOEL	60 mg/kg/day
	推定根拠	体重↓：250 以上♂ 血液生化学的検査(Bil↑：250 以上♂) 相対重量(腎↑：250 以上♀) 組織学的所見(前胃－粘膜過形成：250 以上♂・1000♀、 膀胱－上皮過形成：250 以上♂♀)
	他の毒性	一般状態(自発運動↓・深大呼吸・腹臥姿勢・筋弛緩・流涎：1000♂♀) 血液生化学的検査(GPT↑：1000♂、ChE↓：1000♀) 相対重量(肝↑：1000♀、副腎↑：1000♂) 組織学的所見(肝－肝細胞腫大：1000♀、 副腎－皮質細胞空胞化：1000♂)
	回復性	前胃－粘膜過形成、膀胱－上皮過形成
他の毒性	<p>[SIAR より引用]</p> <p>反復投与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Rat、強制経口 (50, 200, 800mg/kg)、28 日間 NOAEL：200 mg/kg 一般状態(流涎：800) 血液学的検査(RBC↓：800♂、凝固時間↓・WBC↓：800♀) 血液生化学的検査(ALAT↑：800♂♀) 絶対重量(肝↑：800♀) 相対重量(肝↑：800♀) ・Rat、強制経口 (50, 200, 600 mg/kg)、ReproTox NOAEL：200 mg/kg 体重↓：600 摂水量↑：600 血液学的検査(Hgb↓：600♂) <p>変異原性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98)： 陰性 (With and without metabolic activation) ・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98)： 陰性 (With and without metabolic activation) ・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98)： 陰性 (With and without metabolic activation) ・Ames 試験(TA98, TA100, TA97, TA104)： 陽性 (With and without metabolic activation) ・Ames 試験(TA97, TA98)： 陰性 (With and without metabolic activation) ・Ames 試験(TA1537, TA100, TA1537, TA98)： 陰性 (With and without metabolic activation) ・小核試験(マウス)：(陽性) ・小核試験(マウス)：(陰性) 	
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性、NOEL60 mg/kg/day であることから第 二種監視化学物質相当ではない	

他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性値として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Scenedesmus subspicatus</i> 96hEbC50= 8.2 mg/L、EC10=0.89 mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEiC50= 0.29 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEiC50= 1.0 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEiC50= 0.63 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC= 0.55 mg/L (繁殖阻害) <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Lepomis macrochirus</i> 96hLC50=2.3 mg/L ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50=6.3 mg/L ・ <i>Danio rerio</i> 96hLC50=3~6 mg/L
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.29mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.3mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

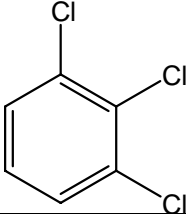
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1372 3-2684	CAS No.	3319-31-1
判定案	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p>		
名称 構造式等	<p>名称：1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸トリス(2-エチルヘキシル)エステル</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 ≥ 99.0 %. 溶媒 (アセトン-溶解).</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>(本試験 I, II)</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate (全用量で被験物質の析出)</p> <p>+S9mix 群 : 5000 μg/plate (1250 μg/plate 以上で被験物質の析出)</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 ≥ 99.0%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU.</p> <p>5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施.</p> <p>-S9mix 群 : 5.0 mg/mL</p> <p>+S9mix 群 : 5.0 mg/mL</p> <p>24 時間処理群 : 5.0 mg/mL</p> <p>48 時間処理群 : 5.0 mg/mL</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	>99.0 %	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	1000 mg/kg/day	
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	-	
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	>99.0 %	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	100 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与及び生殖発生毒性 組織学的所見(精巣-精母細胞 ↓ ・精子細胞 ↓ : 300 以上♂)	
	他の毒性	なし	

他の毒性	[SIAR より引用] 反復投与 ・Rat、混餌投与(0.2, 0.67, 2.0%)(184, 650, 1826 mg/kg/day)、28日間 NOAEL=184 mg/kg/day 血液学的検査(Hgb↓ : 0.67 以上♂♀、WBC↑ : 0.67 以上♂) 血液生化学的検査(Alb↑ : 0.67 以上♂♀、Cho↑ : 0.67 以上♂、BUN↑ : 2.0%♂) 絶対重量(肝↑ : 0.67 以上♂♀) 相対重量(肝↑ : 0.67 以上♂♀) 肝生化学的検査(Palmitoyl CoA 酸化↑ : 0.2 以上♂・2.0♀、Catalase↑ : 2.0♂、 Creatine acetyltransferase : 0.67 以上♂♀) 電顕所見(Peroxisome 増殖 : 2.0)					
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL100mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない					
藻類生長阻害	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 試験濃度 : 設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 74 mg/L (幾何平均値) 助剤 : HCO-40 100 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) > 74 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 74 mg/L (試験上限濃度では影響が認められなかった)					
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 止水式 試験濃度 : 設定濃度 17、31、56、100、180 mg/L 実測濃度 16、29、52、97、178 mg/L (幾何平均値) 助剤 : HCO-40 100 mg/L (最高濃度) 48hErC50 (設定値に基づく) > 180 mg/L					
ミジンコ繁殖阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG211 試験方式 : 半止水式、週に3回換水 試験濃度 : 設定濃度 56、100 mg/L 実測濃度 55、99 mg/L (時間加重平均値) 助剤 : HCO-40 100 mg/L 21dNOEC (設定値に基づく) = 56 mg/L					
魚類急性毒性	生物種 : ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法 : OECD-TG203 試験方式 : 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度 : 設定濃度 100 mg/L (限度試験) 実測濃度 100 mg/L (幾何平均値) 助剤 : HCO-40 100 mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) > 100 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 100 mg/L 群 : 異常呼吸 (24hr 1/10)					
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験において、試験上限濃度で影響が認められず、かつミジンコ繁殖阻害試験において21dNOEC=56mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当でない。					
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界	

※1	水質	S55	0/45	—	0.008~3(μ g/L)
	底質	S55	0/45	—	0.0039~0.02(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S56 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

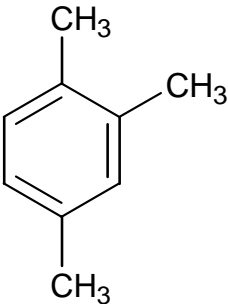
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-74	CAS No.	87-61-6
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1, 2, 3-トリクロロベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響の毒性 情報	<p>[EHC128 より引用]</p> <p>染色体異常試験：[衛生試験所報告, 103, 64, (1985)より引用]</p> <p>陰性 CHL/IU 使用</p> <ul style="list-style-type: none"> -S9mix 群：0.125mg/mL +S9mix 群：0.125mg/mL 24 時間処理群：0.0625mg/mL 48 時間処理群：0.0625mg/mL <p>反復投与試験</p> <p>13 週間：[Drug Chem Toxicol., 11, 11 (1988)より引用]</p> <p>ラット混餌投与 用量：1, 10, 100, 1000ppm</p> <p>NOAEL：100ppm(♂：7.6mg/kg/day, ♀：12 mg/kg/day)</p> <p>体重減少：1000ppm、相対重量(肝・腎↑：1000ppm)、</p> <p>肝-小葉中心性/小葉中間帯の肝細胞核の大小不同・肝細胞の肥大：1000ppm、</p> <p>甲状腺-濾胞サイズの減少・上皮の丈の増長：1000ppm</p> <p>催奇形性：[Bull Environ Contam Toxicol., 41, 719 (1988) より引用]</p> <p>ラット 妊娠 6-15 日(精子発見日=妊娠 1 日)投与、用量：150, 300, 600mg/kg/day</p> <p>母体への影響；血液学的検査(Hct↓：600、Hgb↓：300 以上)、</p> <p>相対重量(肝↑：600)、</p> <p>組織学的所見(甲状腺-濾胞サイズの減少・上皮の丈の増長：300 以上、</p> <p>肝-小葉周辺性の肝細胞質好酸性化・肝細胞核の大小不同：300 以上)</p> <p>胎児への影響：特になし</p> <p>小核試験：Mutagenesis, 2, 111 (1987)</p> <p>陽性</p> <p>NMRI マウス、腹腔内投与 1 群 5 匹</p> <p>4 投与群(250, 500, 750, 1000mg/kg)</p> <p>[Environmental Mutagenesis Supplement より引用]</p> <p>Ames 試験</p> <p>陰性</p> <p>純度 97% 溶媒 DMSO</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537</p> <ul style="list-style-type: none"> -S9mix 群：333.3 μ /plate +S9mix 群：333.3 μ /plate 		

人健康影響判定根拠	小核試験は陽性、反復投与毒性試験はNOAEL7.6mg/kg/dayであることから、継続的に摂取される場合人の健康を損なうおそれの疑いがあるため、第二種監視化学物質相当				
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.050、0.12、0.28、0.64、1.5、3.4、8.0 mg/L 実測濃度 0.037、0.094、0.23、0.54、1.3、3.2、7.9 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40（1:4） 80 mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく） =1.9 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく） =0.094 mg/L				
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.074、0.14、0.26、0.44、0.79 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40（8:25） 33 mg/L 48hEiC50（実測値に基づく） =0.46 mg/L				
ミジンコ繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.045、0.10、0.22、0.50 mg/L 実測濃度 0.016、0.034、0.082、0.17、0.39 mg/L（時間加重平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40（1:1） 20 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく） =0.17 mg/L				
魚類急性毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 1.0、2.0、4.0、8.0、16 mg/L 実測濃度 0.80、1.8、3.7、6.5、14 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40（1:4） 80 mg/L 96hLC50（設定値に基づく） =3.2 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.0 mg/L 群： 異常遊泳（48hr 3/10、72hr 5/10、96hr 10/10） 2.0 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 10/10、48hr 4/10、96hr 4/10） 遊泳不能（48hr 6/10、72hr 10/10、96hr 6/10） 4.0 mg/L 群： 遊泳不能（24hr 7/7、48hr 3/3、72hr 2/2、96hr 2/2）				
生態影響判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hNOECr=0.094mg/L であり、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.46mg/L であり、かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 3.2mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S50	0/95	—	0.08~0.3(μ g/L)
		S54	2/111	0.05~0.07(μ g/L)	0.01~0.4(μ g/L)
	底質	S50	0/95	—	0.002~0.1(μ g/g-dry)
		S54	19/111	0.0004~0.058(μ g/g-dry)	0.0001~0.1(μ g/g-dry)
	魚類	S50	0/75	—	0.005~0.1(μ g/g-wet)
S54		0/93	—	0.0001~0.1(μ g/g-wet)	
雨水	S50	0/24	—	0.00008~0.0003(ppm)	

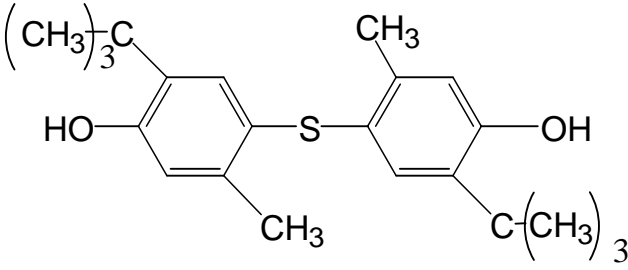
	大気	S61 H11	22/73 38/38	1.1~12(ng/m ³) 0.018~11(ng/m ³)	1.0(ng/m ³) 0.015(ng/m ³)
備考	※1 S51、S55、S62、H12 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-7 3-3427	CAS No.	95-63-6
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	<p>名 称：1, 2, 4-トリメチルベンゼン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 98.75%. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I)</p> <p>−S9mix 群：250 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 125 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 500 μg/plate (WP2uvrA : 250 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群：250 μg/plate (TA1537 : 125 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 500 μg/plate (TA100, TA1535 : 250 μg/plate 以上で菌の生育阻害 WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) 1000 μg/plate (TA98 : 500 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p> <p>(本試験 II)</p> <p>−S9mix 群：250 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 125 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 500 μg/plate (WP2uvrA : 250 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群：250 μg/plate (TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 500 μg/plate (TA100 : 250 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) 1000 μg/plate (TA98 : 500 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 98.75%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.2mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. −S9mix 群：0.15 mg/mL (細胞毒性のため 0.075mg/mL まで観察) +S9mix 群：0.10 mg/mL 24 時間処理群：0.080 mg/mL 48 時間処理群：0.080 mg/mL (細胞毒性のため 0.040mg/mL まで観察)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	98.75%	
	用量	4 投与群 (30, 100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	

	NOEL	100 mg/kg/day			
	推定根拠	摂水量↑：300 以上♂・1000 ♀ 一般状態(流涎：300 以上♂♀) 血液生化学的検査(Alb 分画↑・A/G↑・K↑：300 以上♂、Cho↑300 以上♀) 絶対重量(肝↑：300 以上♀) 相対重量(肝↑：300 以上♀・1000♂、腎↑：300 以上♂・1000♀) 組織学的所見(腎一硝子滴変性：300 以上♂)			
	他の毒性	体重↓：1000♂ 血液学的検査(Plt↓：1000♀) 血液生化学的検査(GPT↑：1000♀、Na↓：1000♂)			
	回復性	摂水量↑			
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性、NOEL100 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51	0/20	—	0.1 (μg/L)
	底質	S51	0/20	—	0.01 (μg/g-dry)
	大気	H10	39/42	370~10000(ng/m ³)	370(ng/m ³)
備考	※1 S52、H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1118	CAS No.	96-69-5
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：4, 4'-チオビス (6-tert-ブチル-m-クレゾール)</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度\geq98%. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群 : 50 μg/plate (TA1537 : 12.5 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA100, TA1535 : 25 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 200 μg/plate (TA98 : 100 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA : 全用量で被験物質の析出) +S9mix 群 : 800 μg/plate (TA1535 : 400 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA100, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA : 全用量で被験物質の析出) (本試験 II) -S9mix 群 : 50 μg/plate (TA100, TA1537 : 12.5 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535 : 25 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 200 μg/plate (TA98 : 100 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA : 全用量で被験物質の析出) +S9mix 群 : 800 μg/plate (TA100, TA1537 : 400 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA : 全用量で被験物質の析出)</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度\geq98%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 0.01mg/mL(-S9mix 群及び連続処理群)又は0.02mg/mL(+S9mix 群)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.00090 mg/mL +S9mix 群 : 0.020 mg/mL 24 時間処理群 : 0.0020 mg/mL 48 時間処理群 : 0.0020 mg/mL (細胞毒性のため 0.0010mg/mL まで観察)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 5%アラビアゴム水溶液	
	純度	\geq 98%	
	用量	3 投与群 (15, 60, 250 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	15 mg/kg/day	

推定根拠	尿検査(尿 pH ↓・尿沈渣 (リン酸塩) ↑ : 60 以上♀・250♂、 蛋白 ↑・尿ケトン体 ↑ : 60 以上♀) 血液生化学的検査(Pi ↑ : 60 以上♀) 組織学的所見(盲腸－吸収上皮細胞の空胞化・粘膜の細胞浸潤 : 60 以上♂♀、 結腸－吸収上皮細胞の空胞化 : 60 以上♂♀、 結腸－細胞浸潤 : 60 以上♀)
他の毒性	血液学的検査(Plt ↑ : 250♂♀、Lympho ↓・Seg ↑ : 250♀) 血液生化学的検査(Cho ↑ : 250♂♀、PL ↑・Glu ↓・BUN ↑ : 250♀) 相対重量(肝 ↑ : 250♂♀) 組織学的所見(回腸－粘膜の過形成 : 250♂♀、 直腸－粘膜の細胞浸潤 : 250♂♀、 肝臓－小葉中心性肝細胞肥大 : 250♂♀、 腸間膜リンパ節－傍皮質領域のtingible body macrophage : 250♂♀)
回復性	回腸－粘膜の過形成、盲腸－粘膜の細胞浸潤

他の毒性

[NTP より引用]

反復投与

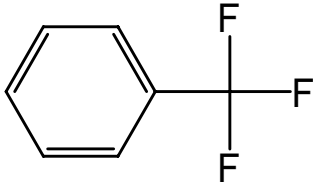
- ・ Rat 混餌投与(250, 500, 1000, 2500, 5000 ppm)、13 週間
 (♂ : 15, 30, 60, 165, 315 ♀ : 15, 35, 70, 170, 325 mg/kg/day)
 体重↓(5000♂♀)
 摂餌量↓(5000♂♀)
 血液学的検査(Hct↓・Hgb↓ : 1000 以上♂、MCV↓ : 1000 以上♂・5000♀、WBC↑・Seg↑ : 5000♂♀)
 血液生化学的検査(AIP↑ : 2500 以上♂、ALT↑ : 2500 以上♂♀)
 絶対重量(肝↑ : 5000♂♀)
 相対重量(肝↑ : 2500 以上♂・5000♀)、
 組織学的所見(肝-クッパ^o-細胞肥大・胆管増生・単細胞壊死 : 2500 以上♂♀、
 小葉中心性肝細胞肥大 : 5000♂♀、腸間膜リンパ^o節-マクロファージ^o↑ : 2500 以上♂♀)
 腎-皮質尿細管上皮色素沈着・変性 : 2500 以上♂♀、腎-皮質尿細管上皮壊死 : 5000♂♀)
 FOB(前肢・後肢握力↑ : 1000 以上♂♀) (1000,2500 のみ検査)
- ・ Mice 混餌投与(100, 250, 500, 1000, 2500 ppm)、13 週間
 (♂ : 15, 30, 65, 145, 345 ♀ : 10, 35, 60, 165, 340 mg/kg/day)
 体重↓(2500♂・500 以上♀)
 摂餌量↓(2500♂♀)
 血液学的検査(RBC↓・Hct↓ : 1000 以上♂♀、Hgb↓・MCV↓ : 2500♂♀)
 絶対重量(肝↑ : 2500♂♀、脾↑ : 500 以上♂・2500♀)
 相対重量(肝↑ : 2500♂♀、脾↑ : 500 以上♂・2500♀)
 組織学的所見(肝-クッパ^o-細胞肥大・胆管増生 : 2500♂♀、腸間膜リンパ^o節-マクロファージ^o↑ : 2500♂♀)
- ・ Rat 混餌投与(500, 1000, 2500 ppm)、2 年間
 (♂ : 20, 40, 100, ♀ : 20, 45, 120 mg/kg/day)
 体重↓(2500♂)
 血液学的検査(Hct↓ : 1000 以上♂_15M・2500♀_9M、
 Hgb↓ : 1000 以上♂_15M・2500♀_9・15M、RBC↓ : 1000♂_15M、
 MCH↓・MCHC↓ : 2500♀_9・15M)
 血液生化学的検査(AIP↑ : 1000 以上♂_3・9・15M・2500♀_15M、ALT↑ : 2500♂♀
 _3・9・15M・2500♀_3・9M・1000♀_15M、SDH↑ : 2500♂♀_3・9・15M)
 絶対重量(肝↑ : 2500♀_15M)
 相対重量(肝↑ : 1000 以上♀_15M・2500♂_15M)
 組織学的所見(肝-肝細胞空胞化 : 2500♀_15M・1000♀_24M・500 以上♂_15M、肝-
 肝細胞脂肪化 : 2500♀_24M、肝-クッパ^o-細胞肥大 : 2500♂♀_15・24M、肝-好
 塩基性巢増加 : 2500♂_15M、肝-混合細胞巢増加 : 1000 以上♂_24M・2500♀
 _15M・1000♀_24M、腎-腎症 : 2500♀_15・24M)
- ・ Mice 混餌投与(250, 500, 1000 ppm)、2 年間
 (♂ : 30, 60, 145, ♀ : 45, 110, 255 mg/kg/day)
 体重↓(1000♂・250 以上♀)
 血液学的検査(RBC↓ : 1000♂♀_15M、Hgb↓・Hct↓ : 1000♂_15M)
 血液生化学的検査(AIP↑ : 1000♂_3M・500 以上♂_9M・1000♀_9M・500 以上♀
 _15M、Bil↑ : 1000♂_3M・250 以上♂_9・15M・1000♀_9M)

変異原性

- ・ Ames 試験 (TA98, TA100, TA1535, TA1537) :
 陰性 (With and without metabolic activation)
- ・ 染色体異常試験 (CHO cells)
 陰性 (With and without metabolic activation)

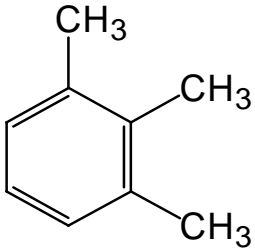
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性であるが、NOEL15 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S56	0/18	—	1~5(μ g/L)
	底質	S56	0/18	—	0.01~0.2(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S57 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-86	CAS No.	98-08-8
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称：(トリフルオロメチル) ベンゼン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度\geq98%. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μ g/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I)</p> <ul style="list-style-type: none"> -S9mix 群 : 1000 μ g/plate (TA1535 : 500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA100,TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 μ g/plate (TA98 : 1000 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1000 μ g/plate (TA1535 : 500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 μ g/plate (TA98,TA100,WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) <p>(本試験 II)</p> <ul style="list-style-type: none"> -S9mix 群 : 1000 μ g/plate (TA100, TA1535, TA1537 : 500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA98,WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1000 μ g/plate (TA1537 : 500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 μ g/plate (TA98 : 1000 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA100,WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) 		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度\geq98%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.5mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施.</p> <ul style="list-style-type: none"> -S9mix 群 : 1.5 mg/mL +S9mix 群 : 1.5 mg/mL <p>24 時間処理群 : 0.3 mg/mL (細胞毒性のため 0.15mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.3 mg/mL (細胞毒性のため 0.15mg/mL まで観察)</p>		
反復経口投与 毒性・生殖発 生毒性併合試 験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	99.7%	
	用量	3 投与群 (20, 100, 500 mg/kg/day)	
	死亡	本試験(100 : ♀ 1/12、500 : ♂ 1/12・♀ 1/12→投与ミス、 500 : ♀ 1/12→分娩後死亡)	
	NOEL	反復投与 : 20 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 20 mg/kg/day 未満	

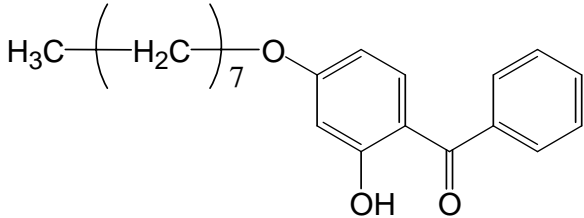
推定根拠	反復投与 相対重量(肝↑：100以上♂・500♀) 組織学的所見(肝－小葉中心性肝細胞肥大：100以上♂♀、 腎－近位尿細管硝子滴・近位尿細管壊死・近位尿細管拡張・ 近位尿細管塩基性化：100以上♂) 生殖発生毒性 新生児体重↓：20以上
他の毒性	反復投与 血液生化学的検査(TP↑・Alb↑・Cho↑・TG↑・PL↑・Glu↓：500♂) 絶対重量(肝↑：500♂♀、腎↑：500♂) 相対重量(腎↑：500♂) 組織学的所見(胸腺－皮質萎縮：500♀) 生殖発生毒性 新生児生存率↓：500
回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性であるが、NOEL20 mg/kg/day（生殖発生毒性については 20 mg/kg/day 未満）であることから第二種監視化学物質相当
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-7 3-3427	CAS No.	526-73-8
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い		
名称 構造式等	名 称：1, 2, 3-トリメチルベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 90.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). *純度換算あり TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I) -S9mix 群：45.4 μg/plate* (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：45.4 μg/plate* (TA100,TA1535,TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 182 μg/plate* (TA98, WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：45.4 μg/plate* (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：45.4 μg/plate* (TA100,TA1535,TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 182 μg/plate* (TA98, WP2uvrA： 90.8 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 90.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. *純度換算あり 0.726mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群：0.480 mg/mL +S9mix 群：0.960 mg/mL (細胞毒性のため 0.480mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.360 mg/mL 48 時間処理群：0.240 mg/mL (確認試験) +S9mix 群：0.80mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.8 %	
	用量	本試験 3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day) 追加試験 3 投与群 (3, 10, 30 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	30 mg/kg/day	
推定根拠	血液学的検査(PT↑：100 以上♂、 APTT↑：100 以上♂♀) 血液生化学的検査(Cl↓：100 以上♀・1000♂)		

	他の毒性	一般状態(流涎：1000♂♀) 血液生化学的検査(Cho↑：1000♂♀、TP↑：1000♀) 絶対重量(腎↑：300以上♂、肝↑：1000♂♀) 相対重量(腎↑：300以上♂、肝↑：1000♂♀) 組織学的所見(肝－肝細胞腫脹：300以上♂、1000♀、 腎－石灰沈着・好酸性小体・蛋白円柱・管腔拡張：1000♂、 腎－硝子滴変性：300以上♂、脾臓－うっ血：1000♀) 回復期 脾臓－髓外造血			
	回復性	APTT↑、TP↑、腎↑、腎－好酸性小体・管腔拡張・細胞浸潤			
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性、NOEL30mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51	0/20	—	0.1(μg/L)
	底質	S51	0/20	—	0.01(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S52 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

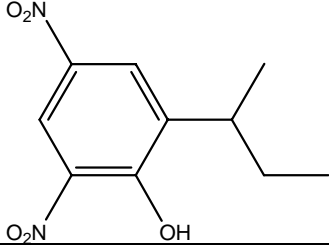
官報公示 整理番号	4-141	CAS No.	1843-05-6
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	<p>名 称：2-ヒドロキシ-4-(オクチルオキシ)ベンゾフェノン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度$\geq 99\%$. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群: 5000 μg/plate (625 μg/plate 以上で被験物質の析出) +S9mix 群: 5000 μg/plate (625 μg/plate 以上で被験物質の析出)</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度$\geq 99\%$. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU. 5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群: 5.0 mg/mL(全用量で被験物質の析出) +S9mix 群: 5.0 mg/mL(全用量で被験物質の析出) 24 時間処理群: 5.0 mg/mL(全用量で被験物質の析出) 48 時間処理群: 5.0 mg/mL(全用量で被験物質の析出)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒: 0.1% Tween80 添加 0.5% CMC-Na 水溶液	
	純度	$\geq 99\%$	
	用量	3 投与群 (20, 140, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	1000 mg/kg/day	
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	-	
回復性	問題なし		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL1000 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない		
備考			

	剖検所見(盲腸一拡張：250♂♀) 組織学的所見(肝一小葉中心性肝細胞肥大：250♂♀、 腎一皮髓境界部近位尿細管好塩基性化・集合管好塩基性化・集合管拡張：250♂♀、 腎一腎盂粘膜単純性過形成・皮髓境界部近位尿細管単細胞性壊死・円柱・腎盂拡張：250♀、 膀胱一移行上皮単純性過形成：250♂♀)
回復性	腎↑、腎一皮質境界部近位尿細管好塩基性化・集合管拡張・円柱
他の毒性	<p>[EU-RAR・化学物質有害性評価書より引用]</p> <p>反復投与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Rat、強制経口(25, 100, 400 mg/kg)、28日間 NOAEL：100 mg/kg 体重↓(400♂♀) 摂餌量↓(400♂♀) 血液生化学的検査(BUN↑・CHO↑・Glu↓：400♂) 相対重量(腎↑・肝↑・精巢↑：400♂) 組織学的所見(腎一近位尿細管硝子滴沈着：400♂、 肝一門脈周囲肝細胞空胞化：400♂) ・Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 140 mg/kg/day)、90日間 NOAEL：50 mg/kg/day 体重↓(140♂♀) 血液生化学的検査(AST↑・ALT↑：140♀) 組織学的所見(肝一肝細胞壊死：140♀、腎一尿細管石灰化：140♂) ・Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 160 mg/kg/day)、3世代 LOAEL：15 mg/kg/day 体重↓(160♂♀) 相対重量(腎↑：50以上♂・160♀) 組織学的所見(腎一尿細管変性/拡張：15以上♂♀) ・Rat、強制経口(100, 250, 400 mg/kg)、10週間 死亡：100以上 <p>生殖発生毒性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Rat、混餌投与(25, 500, 2000 ppm)、親：妊娠7～21日、児：生後21～77日 親動物 摂餌量↓：25以上 F1 体重↓：25以上♂・2000♀ 摂餌量↓：25以上♂ 摂水量↑：2000♂♀ ・Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 160 mg/kg/day)、3世代 生殖毒性 NOAEL：15 mg/kg/day (200 ppm) 子宮重量↑・膈開口早期化・卵巣↓・精巢上体精子数↓：650以上 精巢精子細胞↓：2000 ・Rat、強制経口(2, 10, 50 mg/kg)、 ♂交配前12週間前より、♀交配前2週間前より妊娠・出産・授乳期まで 一般毒性 NOAEL：10 mg/kg 親生殖能 NOAEL：50 mg/kg 肝↑・腎↑・下垂体↑・胸腺↓・TSH↑：50♂

	<ul style="list-style-type: none"> ・Rat 強制経口投与 (75,150,300mg/kg/day) 親：妊娠 6～15 日 催奇形性はみとめられない 母体毒性 NOAEL：75mg/kg/day、発生毒性 NOAEL：300mg/kg/day 体重↓・摂餌量↓・死亡率↑：300 腎・脾臓の剖検所見：150 以上 <p>変異原性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98)： 陰性(With and without metabolic activation) ・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98, E.coli WP2 uvrA)： 陰性 (With and without metabolic activation) ・小核試験(マウス)：(陰性) ・小核試験(マウス)：(陰性)
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL15mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.26、0.61、1.7、3.8、9.2 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 100 mg/L (最高濃度区) 0-72hErC50 (実測値に基づく) >9.2 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.26 mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 試験濃度：設定濃度 0.022、0.046、0.10、0.22、0.46 mg/L 実測濃度 0.017、0.034、0.075、0.17、－ (測定なし) mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 4.6 mg/L (最高濃度区) 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.059 mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.010、0.022、0.046、0.10、0.22 mg/L 実測濃度 0.008、0.018、0.038、0.089、0.19 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 2.2 mg/L (最高濃度区) 21dNOEC (実測値に基づく) =0.089 mg/L</p>
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.07、0.13、0.24、0.42、0.94 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 10 mg/L (最高濃度区) 96hLC50 (実測値に基づく) =0.24 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.13 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 10/10) 0.24 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 1/10、48hr 9/9、72hr 6/6、96hr 5/5)</p>

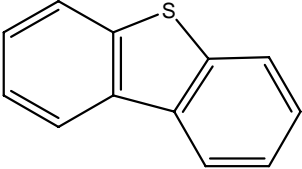
魚類初期生活段階毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.0050、0.013、0.035、0.094、0.25 mg/L 実測濃度 0.0051、0.012、0.033、0.087、0.24 mg/L (算術平均値) 助剤：DMF 約 100 μ L/L NOEC (実測値に基づく) = 0.033 mg/L 【推定根拠 孵化後の生存率、全暴露期間の生存率、正常個体率、体重、体長】				
他の毒性情報	[化学物質の環境リスク評価 第2巻 (環境省環境保健部環境リスク評価室) より引用] ミジンコに対する毒性として <ul style="list-style-type: none"> • <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=0.085 mg/L • <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=0.19 mg/L • <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.024 mg/L • <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.071 mg/L • <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.077 mg/L • <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.10 mg/L • <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.12 mg/L 魚類に対する毒性として <ul style="list-style-type: none"> • <i>Oncorhynchus mykiss</i> 96hLC50=0.22 mg/L • <i>Oncorhynchus mykiss</i> 91dNOEC=0.006 mg/L • <i>Oryzias latipes</i> 56dNOEC > 1.9 mg/L 				
生態影響判定根拠	ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.059mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.089mg/L 及び魚類初期生活段階試験において NOEC=0.033mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51	0/8	—	5(μ g/L)
		S52	0/3	—	0.4(μ g/L)
		H9	0/123	—	1.1(μ g/L)
	底質	S51	0/8	—	0.25(μ g/g-dry)
		S52	3/3	0.05~0.07(μ g/g-dry)	—
		H9	43/129	0.17~1.3(μ g/g-dry)	0.15(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S52、S53、H10 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-828	CAS No.	88-85-7
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成16年7月2日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)フェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として、平成16年7月2日に告示済み。 生殖毒性がみとめられることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に 指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物 質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.19、0.36、0.69、1.3、2.5 mg/L 実測濃度 0.095、0.18、0.34、0.68、1.3、2.4 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 98 μL/L 0-72hErC50 (設定値に基づく) = 1.4 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 0.36 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.36、0.63、1.1、2.0 mg/L 実測濃度 0.18、0.34、0.60、1.0、1.9 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 38 μL/L 48hEiC50 (設定値に基づく) = 0.40 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0080、0.022、0.063、0.18、0.50 mg/L 実測濃度 0.0078、0.021、0.062、0.17、0.46 mg/L (時間加重平均値) 助剤： DMF 100 μL/L 21dNOEC (設定値に基づく) = 0.062 mg/L		

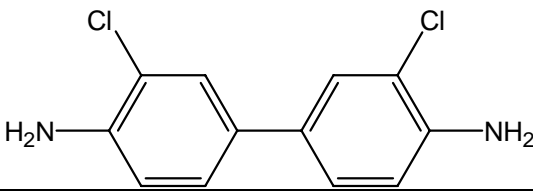
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.060、0.090、0.13、0.20、0.30 mg/L 実測濃度 0.059、0.091、0.13、0.20、0.30 mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 96hLC50（実測値に基づく）=0.28 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.20 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（72hr 1/9、96hr 1/9） 0.30 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（24hr 1/8、48hr 2/8、72hr 4/4、96hr 4/4）、 表層集中（48hr 3/8）</p>
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.40mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.062mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.28mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-3352	CAS No.	132-65-0
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ジベンゾチオフェン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.20、0.32、0.50、0.80、1.3、2.0、3.3 mg/L 実測濃度 0.18、0.29、0.45、0.72、1.2、1.9、3.1 mg/L (初期実測値) 0.14、0.22、0.33、0.55、0.97、1.7、2.8 mg/L (幾何平均値) 助剤：THF 及び HCO-40 (11:140) 100 mg/L 0-72hErC50 (幾何平均値に基づく) = 1.6 mg/L 0-72hNOECr (幾何平均値に基づく) = 0.55 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.073、0.13、0.23、0.40、0.70 mg/L (幾何平均値) 助剤：THF 及び HCO-40 (1:14) 30 mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) = 0.44 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、週に3回換水 試験濃度：設定濃度 0.010、0.025、0.070、0.19、0.50 mg/L 実測濃度 0.008、0.019、0.054、0.15、0.43 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (1:1) 30 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.054 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.33、0.60、1.0、1.8、3.3 mg/L 実測濃度 0.24、0.44、0.85、1.5、2.6 mg/L (幾何平均値) 助剤：THF 及び HCO-40 (1:14) 99 mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) = 1.4 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.33 mg/L 群及び 0.60 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 10/10、96hr 10/10) 1.0 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 9/9、96hr 7/9) 平衡喪失 (96hr 2/9) 1.8 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 7/9) 平衡喪失 (48hr 2/9、72hr 6/6、96hr 5/5)		

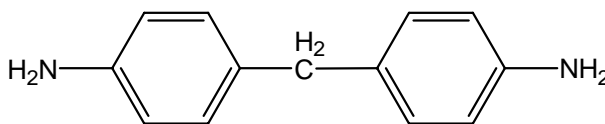
魚類初期生活段階毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：卵・胚期 半止水式、3日以内に1回換水 仔魚・稚魚期 流水式 物質濃度：設定濃度 0.010、0.032、0.10、0.32、1.0 mg/L 実測濃度 0.0087、0.028、0.088、0.27、0.88 mg/L (時間加重平均値(卵・胚期)及び算術平均値(仔魚・稚魚期)) 助剤：DMF及びHCO-60(1:1) 80 mg/L NOEC(設定値に基づく) = 0.032 mg/L 【推定根拠 体重、体長】				
生態影響判定根拠	ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.44mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.054mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.4mg/L 及び魚類初期生活段階試験において NOEC=0.032 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S58	0/45	—	0.05~0.1(μ g/L)
		H10	0/42	—	0.02(μ g/L)
	底質	S58	6/45	0.001~0.005(μ g/g-dry)	0.001~0.007(μ g/g-dry)
		H10	28/39	0.0022~0.14(μ g/g-dry)	0.0021(μ g/g-dry)
	魚類	H10	15/39	0.00071~0.013(μ g/g-wet)	0.00034(μ g/g-wet)
備考	※1 S59、H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-800	CAS No.	91-94-1
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として昭和62年10月17日に告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3, 3'-ジクロロベンジジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、昭和62年10月17日に告示済み。 変異原性及びがん原性がみとめられることから、指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：静置培養（1日2回軽く攪拌） 試験濃度：設定濃度 0.046、0.10、0.22、0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.021、0.041、0.10、0.19、0.67、2.1、3.8、6.1 mg/L (幾何平均値) 助剤：アセトン 100 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 1.4* mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 0.15* mg/L *試験は3, 3'-ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については3, 3'-ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、24時間後に換水 試験濃度：設定濃度 0.75、1.0、1.3、1.8、2.4、3.2、4.2 mg/L 実測濃度 0.64、0.94、1.1、1.7、2.2、2.7、3.4 mg/L (幾何平均値) 助剤：アセトン 42 mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) = 1.9* mg/L *試験は3, 3'-ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については3, 3'-ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.083、0.16、0.27、0.47、0.89 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMSO 100 μL/L 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.36* mg/L *試験は3, 3'-ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については3, 3'-ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。		

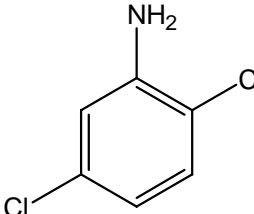
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.32、0.42、0.56、0.75、1.0、1.3、1.8、2.4、3.2 mg/L 実測濃度 0.20、0.26、0.41、0.51、0.86、1.2、1.7、2.0、2.8 mg/L (幾何平均値) 助剤：アセトン 32 mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) =0.51* mg/L *試験は3, 3' -ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については3, 3' -ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.41 mg/L 群：内出血またはうっ血 (96hr 1/10) 0.51 mg/L 群：内出血またはうっ血 (96hr 2/7) 0.86 mg/L 群：不活発 (24hr 1/10、48hr 5/9) 異常遊泳 (48hr 3/9、72hr 4/6)、 横転 (48hr 1/9) 内出血またはうっ血 (96hr 2/3) 1.2 mg/L 群：不活発 (24hr 2/10、48hr 2/7) 異常遊泳 (48hr 1/7、72hr 1/4) 内出血またはうっ血 (72hr 1/4、96hr 1/1) 1.7 mg/L 群：不活発 (24hr 5/10、48hr 2/2) 内出血またはうっ血 (72hr 1/1、96hr 1/1)</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=1.9mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有すること、かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.51mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S54 H15	0/21 1/57	— 0.014(μg/L)	0.01~7(μg/L) 0.010(μg/L)
	底質	S54	0/21	—	0.0003~0.9(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S55、H16 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-40	CAS No.	101-77-9
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として平成元年3月22日に告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4, 4'-メチレンビスベンゼンアミン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成元年3月22日に告示済み。 変異原性、反復投与毒性試験において重要な影響及びがん原性がみとめられることから、 指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.43、0.93、2.0、4.3、9.3、20 mg/L 実測濃度 0.18、0.38、0.80、1.8、4.0、8.6、19 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 12 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 4.0 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24時間後に換水 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.63、2.0、6.3、20、63、200 mg/L 実測濃度 0.17、0.57、1.8、5.9、19、62、190 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (設定値に基づく) = 2.5 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0060、0.019、0.060、0.19、0.60 mg/L 実測濃度 0.0052、0.018、0.060、0.18、0.59 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.0052 mg/L		

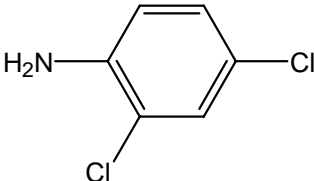
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 14、23、37、61、100 mg/L 実測濃度 12、22、34、58、94 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=21 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 12 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（24hr 10/10、48hr 9/9、72hr 6/9） 22 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（24hr 10/10、48hr 5/7、72hr 4/4、96hr 2/4） 遊泳不能（48hr 2/7、96hr 2/4）</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=2.5mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有すること、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0052mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S60	0/30	—	5(μ g/L)
	底質	S60	0/24	—	1(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※ 1 S61 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-261 5-2298	CAS No.	95-82-9		
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当				
名称 構造式等	<p>名称：2, 5-ジクロロアニリン</p> 				
分解性	難分解性				
蓄積性	高濃縮性でない				
藻類生長 阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.064、0.20、0.64、2.0、6.4、20、64 mg/L 実測濃度 0.053、0.17、0.59、1.9、5.9、19、62 mg/L (幾何平均値) 助剤：メタノール 100 μ L/L (最高濃度) 0-72hErC50 (実測値に基づく) =9.6 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =1.9 mg/L</p>				
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.80、1.7、2.9、4.9、8.5 mg/L (幾何平均値) 助剤：メタノール 100 μ L/L (最高濃度) 48hEiC50 (実測値に基づく) =1.8 mg/L</p>				
ミジンコ 繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 0.0032、0.10、0.032、0.10、0.32、1.0、3.2 mg/L 実測濃度 0.003、0.010、0.032、0.10、0.31、1.0、3.1 mg/L (時間加重平均値) 助剤：メタノール 100 μ L/L (最高濃度) 21dNOEC (設定値に基づく) =0.032 mg/L</p>				
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.91、1.7、2.9、5.2、9.2 mg/L (幾何平均値) 助剤：メタノール 0.1mL/L (最高濃度) 96hLC50 (設定値に基づく) =2.2 mg/L</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=1.8mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有すること、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.032mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.2mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S59 H10	0/18 0/39	— —	0.05~0.1(μ g/L) 0.07(μ g/L)

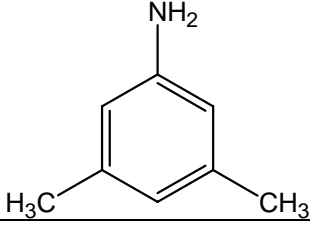
	底質	S59 H10	1/18 1/36	0.0006(μ g/g-dry) 0.01(μ g/g-dry)	0.0006~0.012(μ g/g-dry) 0.005(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S60、H11版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-261	CAS No.	554-00-7
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 4-ジクロロアニリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Selenastrum capricornutum</i> (NIES-35) 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.31、0.63、1.2、2.5、5.0、10 mg/L 実測濃度 0.26、0.56、1.1、2.0、4.1、9.9 mg/L (幾何平均値) 助剤：エタノール及び HCO-30 (1:1) 40 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) >9.9 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =1.1 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 試験濃度：設定濃度 1.5、2.7、4.7、8.4、15 mg/L 実測濃度 設定値の 87~106% 助剤：エタノール及び HCO-30 (1:1) 100 mg/L (最高濃度) 48hEiC50 (設定値に基づく) =4.2 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 Part II (1984 年) 試験方式：半止水式、週に 3 回換水 試験濃度：設定濃度 0.0050、0.016、0.050、0.16、0.50 mg/L 実測濃度 設定値の 88~108% 助剤：2-メトキシエタノール及び HCO-30 (1:1) 2 mg/L 21dNOEC (設定値に基づく) =0.016 mg/L		

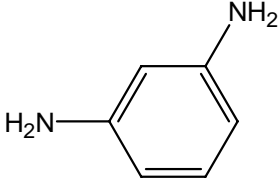
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 3.0、5.0、9.0、16、30 mg/L 実測濃度 2.7、4.7、8.6、14、28 mg/L（幾何平均値） 助剤：2-メトキシエタノール及び HCO-30（1:2） 90 mg/L（最高濃度） 96hLC50（設定値に基づく）=8.1 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>5.0 mg/L 群：軽度平衡喪失（48hr 2/10） 横臥（72hr 1/10）</p> <p>9.0 mg/L 群：軽度平衡喪失（24hr 1/7、48hr 2/5、72hr 1/4、96hr 1/3） 完全平衡喪失（24hr 1/7、48hr 1/5） 表層遊泳（72hr 3/4、96hr 1/3）</p> <p>16mg/L 群：軽度平衡喪失（24hr 3/8） 表層遊泳（24hr 7/8） 横臥（48hr 1/1、72hr 1/1、96hr 1/1）</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=4.2mg/L であり、構造式中に芳香族アミンを有すること、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.016mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=8.1mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51 H10	7/68 0/39	0.032~0.53(μ g/L) —	0.02~0.3(μ g/L) 0.07(μ g/L)
	底質	S51 H10	12/68 0/36	0.0005~0.034(μ g/g-dry) —	0.0005~0.001(μ g/g-dry) 0.008(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S52、H11 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-129	CAS No.	108-69-0
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として、平成15年9月29日に告示済み。) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3, 5-ジメチルアニリン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成15年9月29日に告示済み。 反復投与毒性試験において重要な影響及び変異原性がみとめられることから指定化学物 質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 2.0、3.4、5.8、10、17、29、50 mg/L 実測濃度 1.9、3.2、5.4、9.5、16、27、46 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（設定値に基づく） = 29 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく） = 5.8 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 1.0、1.3、1.7、2.3、3.0、5.5、13、30 mg/L 実測濃度 0.97、1.2、1.7、2.2、2.9、5.2、13、29 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく） = 2.2 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 0.010、0.030、0.10、0.30、1.0 mg/L 実測濃度 設定値の80~120% 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく） = 0.030 mg/L		

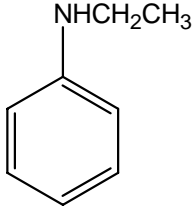
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 6.0、12、24、48、96 mg/L 実測濃度 5.7、12、24、45、92 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=34 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 24 mg/L 群：異常遊泳（24hr 3/10、48hr 3/10、72hr 8/8、96hr 8/8） 45 mg/L 群：異常遊泳（24hr 10/10、48hr 5/6、72hr 1/3） 遊泳不能（48hr 1/6、72hr 2/3、96hr 2/2）</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=2.2mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有すること、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.030mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51	1/68	0.04(μg/L)	0.02~0.2(μg/L)
	底質	S51	5/68	0.002~0.01(μg/g-dry)	0.0005~0.001(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S52 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-185	CAS No.	108-45-2
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として、平成15年9月29日に告示済み。) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：m-フェニレンジアミン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定	指定化学物質として、平成12年9月22日に告示済み。 吸入慢性毒性（作業環境許容濃度から得られた情報）がみとめられることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 5.6、10、18、32、56 mg/L 実測濃度 5.5、10、18、32、56 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（設定値に基づく） = 30 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく） = 10 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.46、0.99、2.2、4.7、10 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく） = 2.0 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.22、0.46、1.0、2.2 mg/L 実測濃度 0.093、0.20、0.47、1.0、2.3 mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 21dNOEC（実測値に基づく） = 0.20 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、48時間後に換水 物質濃度： 設定濃度 100 mg/L（限度試験） 実測濃度 100 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 96hLC50（設定値に基づく） > 100 mg/L		

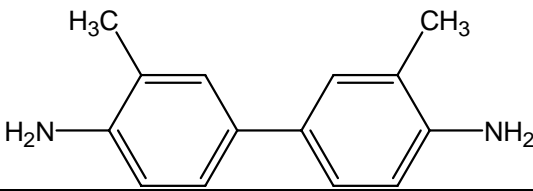
生態影響 判定根拠	ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=2.0mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有することから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S53	0/24	—	5~20(μ g/L)
	底質	S53	0/24	—	1.0~2.2(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S54 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-118	CAS No.	103-69-5
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として、平成12年9月22日に告示済み。) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：N-エチルアニリン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成12年9月22日に告示済み。 経口反復投与試験の結果から化学物質排出把握管理促進法の第二種指定化学物質に指定 されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 1.9、4.3、9.4、21、46、100 mg/L 実測濃度 1.6、3.6、7.9、17、38、81 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 33 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 3.6 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.30、0.95、3.0、9.5、30 mg/L 実測濃度 0.26、0.84、2.7、8.2、26 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (実測値に基づく) = 4.3 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.075、0.15、0.30、0.60、1.2 mg/L 実測濃度 0.064、0.13、0.27、0.54、1.0 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.54 mg/L		

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 物質濃度：設定濃度 6.2、12、25、50、100 mg/L 実測濃度 5.9、12、24、48、95 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=80 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 50 mg/L 群：表層集中（24hr、48hr、72hr、96hr） 活動度の低下（24hr、48hr、72hr、96hr） 呼吸数増加（48hr、72hr、96hr） 100 mg/L 群：表層集中（24hr、48hr、72hr、96hr） 完全平衡喪失（24hr、48hr、72hr、96hr） 過活動（24hr） 嗜眠状態（24hr） 活動度の低下（24hr、48hr、72hr、96hr） 呼吸数増加（24hr、48hr、72hr、96hr） 過敏（48hr） 軽度平衡喪失（48hr、96hr）</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=4.3mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有することから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51	2/68	0.43~0.58(μ g/L)	0.1~0.6(μ g/L)
		H2	0/54	—	0.05(μ g/L)
	底質	S51	20/68	0.002~0.038(μ g/g-dry)	0.002~0.008(μ g/g-dry)
		H2	0/63	—	0.05(μ g/g-dry)
	魚類	H2	0/54	—	0.0043(μ g/g-wet)
	大気	H2	1/36	160(ng/m ³)	130(ng/m ³)
備考	<p>※1 S52、H3 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	9-882	CAS No.	119-93-7
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として、平成12年9月22日に告示済み。) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3, 3'-ジメチルベンジジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響推定根 拠	指定化学物質として、平成12年9月22日に告示済み。 変異原性及びがん原性がみとめられることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指 定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、指定 化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.32、0.56、1.0、1.8、3.2、5.6、10、18、32 mg/L 実測濃度 0.23、0.45、0.85、1.6、2.9、5.4、9.2、17、30 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（実測値に基づく） = 6.3 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく） = 0.45 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 2.2、3.2、4.6、6.8、10、15、22、32、46、68 mg/L 実測濃度 2.0、2.8、4.3、6.3、9.6、14、21、29、43、61 mg/L （時間加重平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく） = 3.9 mg/L（試験機関は 4.5 mg/L）		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.32、0.46、0.68、1.0、1.5、2.2、3.2、4.6 mg/L 実測濃度 0.26、0.39、0.64、0.97、1.5、2.2、3.3、4.9 mg/L （時間加重平均値） 助剤： なし 21dNOEC（実測値に基づく） = 0.26 mg/L		

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 7.5、10、13、18、24、32、42、56 mg/L 実測濃度 7.0、9.6、12、17、23、30、41、54 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) = 13 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 7.5 mg/L 群：横転 (96hr 1/10) 不活発 (72hr 4/10、96hr 9/9) 10 mg/L 群：水面浮上 (96hr 2/7) 不活発 (72hr 9/9、96hr 5/7) 13 mg/L 群：不活発 (48hr 1/10、72hr 7/7、96hr 6/6) 18 mg/L 群：不活発 (24hr 10/10、48hr 9/9、72hr 4/4、96hr 1/1) 24 mg/L 群：不活発 (24hr 10/10、48hr 6/7、72hr 2/2、96hr 1/1) 横転 (48hr 1/7)</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=3.9mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有することから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S52	0/6	—	0.02(μg/L)
	底質	S52	0/3	—	0.002(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S53 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				